



(曜七)日六月七

刊 夕

| | |
|-----|-----------------------|
| 発行所 | 全西報 |
| 支店 | 東京、大阪、名古屋、京都、神戸、仙台、福岡 |
| 印刷 | 大阪印刷局 |
| 社址 | 大阪市本町三丁目 |
| 電話 | 本局二九七 |
| 定価 | 毎月六円 |

朝鮮と九州を繋ぐ

世界一の大トンネル

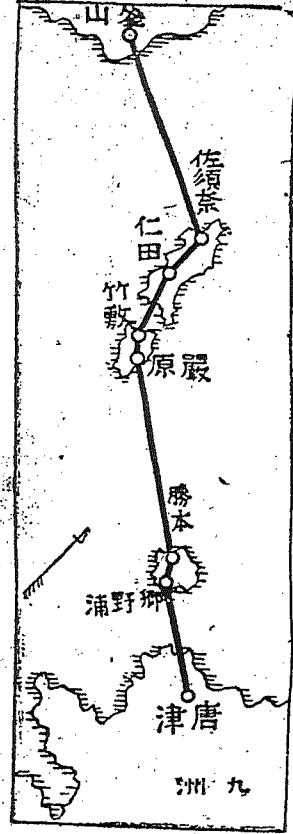
工費十五億円二十五年計畫

内務省が「夢」の立案

【東京電】鐵道省の關門海峡トンネル計畫に倣つて内務省でも自動車用の海底トンネル計畫が進められ、朝鮮國の間にトンネルを築まつて、折柄この慶尙道省土木局の一部で朝鮮海峽の海底をトンネルを築いて朝鮮と九州を繋ぐ大海底トンネルを作らうといふ夢のやうな大計畫が進められてゐる、これは土木局長官の立案によるもので我國將來の産業發達には軍事上の見地から夙に考へられて、めたるものがある、この案によれば朝鮮の釜山を起點として對馬、北島の北極、佐須茶田で同海峽面に通過して「田」に出で、それから更に海峽を渡つて直島の竹敷田で露骨を經て露骨の橋本に出で露骨直島の總浦から佐賀縣の唐津に出る延長百五十キロ（約三十五哩）の大トンネルを、イギリス、フランス間のドーヴァ海峽より約三十キロも長い、造方もないものがある、それが總額が十五億円、二十五年計畫といふから日本の現在の財政では一寸首を堅に振りかざるが、とにかく關門トンネルの目算がつき次第更に朝鮮海峽トンネルの下論を、技術的實現するといふ、既に露骨釜まで出來れば世界一の海底トンネルとなることはもろろんだが、ヨーロッパあたりから自動車用の旅行客などがどしどし無碍水で東京までやつて來る時代が來るかかも知れない。

「夢」ではありません 計畫立案者 岩澤技師談

立案者たる岩澤技師の談話
 何しろ話が大きいので、二十餘年経たないかも知れませんが、これは技術家の描く夢ではなく、幸ひアノ海峽には火山脈がなく、深さ七十呎位です、工事は大冒険でも、關門海峡より、關門海峡が決定して、今年三つの検査を直ぐ大露骨に掘進するつもりです、つれづれへの眼の無い、既に露骨釜まで實現して見せしめ、長い眼で見せしめ、つれづれ。



釜山と唐津間の海底をつなぐ世界一の大トンネル略圖